

## シメオンの賛歌

## ルカ2:25～35 / 李正雨師

メリークリスマス！イエスさまのご降誕、おめでとうございます。神さまはイエスさまを通して、ご自分の愛をこの世に表わされました。救いが何かを見せてくださり、みんながイエス・キリストによって救われることを私たちに教えてくださいました。これはイエスさまがこの世に来られたときから始まりました。天使の受胎告知とエリサベトの預言、マリアの賛歌とザカリヤの預言などを通じて、救いが到来するということが告げられました。そして、この告知のとおり、イエスさまはお生まれになりました。今日の福音書はこの救いに対する賛歌であり、この賛歌を最後にしてメシアについての預言は終わります。神さまの慰め、神さまの救いが臨んだからです。今日の福音書は、私たちに臨んだ救い、イエスさまの降誕に関する物語です。

今日の福音書は「そのとき」という言葉と共に始まります。「そのとき」ということは、幼子イエスさまの清めの儀式の期間を指します。ユダヤ人の伝統によると、男の子の場合は生まれてから8日目に割礼を受け、40日後に清めの儀式を行い、女の子の場合は80日後に清めの儀式を行います。この清めの儀式では、通常、子羊一匹と鳩一羽が捧げ物として使用されます。しかし、暮らし向きが良くない場合は、山鳩一つがいか、家鳩のひな二羽をいけにえとして捧げます。イエスさまの両親は、何を持って清めの儀式を行ったのでしょうか。今日の福音書の前の節である24節には、イエスさまの両親は、「山鳩一つがいか、家鳩のひな二羽をいけにえとしてささげるためであった」と書かれています。つまりイエスさまの家庭の都合も良い方ではなかったということです。とにかく、イエスさまの両親は、清めの儀式を行うためにエルサレム神殿に行きました。そしてそこでシメオンという人と出会います。彼についての紹介は、今日の福音書25節に書かれています。「そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。」

シメオンについての最初の言葉は「正しい人」という言葉です。イエスさまの降誕、救いの始まりは、正しい人たちと共に始まりました。イエスさまの父であるヨセフも正しい人だと紹介されており、身ごもったマリアを祝福したエリサベトも正しい人だと紹介されています。エリサベトの夫であるザカリヤも正しい人、そして、この二人の息子である洗礼者ヨハネも正しい人だと聖書は語っています。これは、神さまは正しい人たちを通してご自分のことを表しておられるということだと思えます。イスラエルの王朝の中には、オムリという王朝があります。この王朝はダビデ王朝を除いて、最も大きく繁栄した王朝です。この王朝の期間中は、国は平安で、外勢の侵略もよく防ぎました。国は発展し、経済的にも安定していました。しかし聖書は、この王朝を悪いと語っています。列王記上16章25節に「オムリは主の目に悪とされることを行い、彼以前のだれよりも悪い事を行った」と書かれています。彼は国のためだという名目で偶像に仕え、王権のために自分に反対する人たちを殺したからです。それで神さまは、この悪い王朝に2人の預言者をお遣わしになります。その預言者は、私たちがよく知っているエリヤとエリシャです。

聖書が語っている正しさは、繁栄、平安、富のようなものには関係ありません。つまり、私たち人間が求めているものとは違うということです。神さまは外的なことを正しいと言われたことはありませんでした。エリートか、有能な人か、良い血統の人か、高い地位を持っている人か。これらのことで人を判断している世の中の基準とは全然違います。今日の福音書のシメオンの紹介にも、外的なことが示されていません。正しい人で、信仰があつく、神さまの慰めを待ち望む人だと書かれています。しかし、聖霊はシメオンと共におられ、彼が死ぬ前にメシアと出会うことができるようになさいました。本当のクリスマスの贈り物が与えられたのです。

一部の人々は、このシメオンを祭司長だと思っています。しかし、シメオンとイエスさまの両親が出会ったところは、神殿の境内であり、この場所は誰でも入ることができる場所でした。すなわち、シメオンは祭司長だったということより、神殿の境内に入ってきたお年寄りの普通の人だったと思います。でも、聖霊

は、この平凡なおじいさんと共におられ、多くの人々の中でメシアを認識することができるようにさせました。それで彼は、このメシアを抱いて賛美することができました。この賛美が最近私たちが礼拝の後で練習している新しい式文の「ヌンク・ディミティス、シメオンの賛歌」です。シメオンはこの美しい賛歌を通してイエスさまの誕生をほめたたえ、イエスさまの両親を祝福します。今日の福音書29～32節までの言葉です。「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり、この僕を安らかに去らせてくださいます。わたしはこの目であなたの救いを見たからです。これは万民のために整えてくださった救いで、異邦人を照らす啓示の光、あなたの民イスラエルの誉れです。」

このシメオンの賛美の内容は、当時のユダヤの信仰とは全く違います。ユダヤ人にとっての救いと栄光は、自国の独立とイスラエルの繁栄でした。メシアが来られると、腐敗した政治家や官僚などは裁かれ、ダビデの時代のように、イスラエルを正しくて強い国にしてくださいという願いがありました。しかしシメオンは、主の救いがイスラエルだけのためのものではないと言います。万民のためにお備えになるもの。それが神さまの救いだと言います。そしてこの救いが異邦人を照らすと言います。彼らにとって異邦人の救いは、あり得ないことでした。ユダヤ人たちは出かけて家に帰ると、手を洗いました。彼らが手を洗うことは、衛生のためではありませんでした。外で異邦人との接触や異邦人が触れた物との接触があったからでした。それで、自分の体を清くするため、ユダヤ人は外出の後に手を洗いました。それほど、ユダヤ人は異邦人をタブーとし、救いは自分たちだけのものだと思っていました。

ところがシメオンは、神さまの救いが万人のもの、異邦人を照らす光だと言います。そして、このような神さまの救いは、イスラエルの栄光だと言います。なぜなら、ダビデの子孫として来られたイエスさまによって、異邦人にも神さまの救いが臨んだからです。それで私たちも、今日、この場でクリスマスを記念して、神さまの救いを賛美することができるのです。シメオンの賛歌のように神さまの救いが私たちに臨んだからです。神さまの救いは、特定の人にもみ与えられるものではなく、皆に与えられるものだということがシメオンの賛歌です。そして皆に与えられたこの救いは、特別なことをします。34～35節の言葉です。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。——あなた自身も剣で心を刺し貫かれます——多くの人の心にある思いがあらわにされるためです。」

シメオンは、イエスさまがどのような人物になるかを預言します。多くの人を倒したり立ち上がらせたりして、反対を受けるしるしとして定められていると言います。これによって、マリアもこのことによって心に大きな傷を受けるのです。しかし、このことが無駄になるものではありません。このことによって、多くの人々の心にある思いが現れるからです。その思いとは何でしょうか。有名になることを願い、偉くなることを願い、支配することを願っている人間の欲の心ではないでしょうか。イエスさまは、低くされている者のためにこの世に来られましたが、彼らさえも、イエスさまによって高くなることを願うでしょう。また、自分が高い能力を持ち、高い地位についている人々も、イエスさまのことを知れば、イエス様に反対するでしょう。救いが人々に臨みましたが、人々は主の救いを受け入れないのです。シメオンはこれらのことが、イエスさまによって表されるのだと言います。そして、これらのことは神さまの救いをより価値あるものにするでしょう。神さまの言葉によく従っている人だけでなく、放蕩息子のような人のためにも、イエスさまは十字架を背負われたからです。

今日の福音書のシメオンの賛歌は、主の救いがみんなに臨んだことを教えてくれます。この救いは、私たちだけのものではなく、皆のものです。神さまはこのためにイエスさまをお遣わしになりました。そしてイエスさまは、自分の考えと欲に陥って、救いを受け入れない者のためにも、十字架につけられました。だからクリスマスの贈り物は、決して小さくありません。この贈り物は、みんなを照らす光になり、私たちにとっては、栄光になります。この貴重な贈り物が皆様と皆様のご家族と共にありますように。私たちの隣人と共にありますように、主の御名によって祈ります。アーメン